

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2022年 2月 9日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田中千聖

<p><b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)</p> <p>日本、京都府南丹市美山町田歌上五波 1-1</p>
<p><b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)</p> <p>基礎フィールドワーク実習・積雪期</p>
<p><b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)</p> <p>2022年 2月 2日 ~ 2022年 2月 4日 (3日間)</p>
<p><b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)</p> <p>合同会社田歌舎、藤原誉氏</p>
<p><b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>本実習は、雪山での生物観察や雪上歩行体験、さらには雪上でのテント設営を通して、積雪期におけるフィールドワークの基礎となるサバイバル技術を学ぶことを目的に、京都府南丹市美山町で行われた。</p> <p><b>■ 実習スケジュール</b></p> <p>2/2 午前：美山町へ移動 午後：雪山登山、雪上自然観察、雪山でのテント設営</p> <p>2/3 午前：テント撤収 午後：田歌舎でシカの狩猟活動、解体の観察</p> <p>2/4 午前：田歌舎付近で自由行動 午後：帰学</p> <p><b>■ 実習内容</b></p> <p>・ 2月2日 午前に WRC から車で実習地まで移動した。田歌舎に到着後、各自でテントや寝袋を持ち雪山を登った。実習地は積雪量が多く、1歩足を踏み出すごとに膝丈まで足が埋もれることがよくあったため、歩く場所に注意した。かんじきを使って歩くことを試みた学生もいたが、それでも歩きづらそうだった。 田歌舎から奥に進み、少し雪山を登った場所でテントを設営した。雪の上に設営したため、体温で溶けないか不安だったが、足で雪を踏み固めると思っていたよりもしっかり設営できた。3人で1つのテントを利用したが、人がいるとテントの中は暖かく、また、キャンプ当日は幸いにも雪もやんでいたので、安全に生活できた。テントを設営した時点で日が暮れ始めていたため、すぐに夕ご飯を作り始めた。夕ご飯はビーフシチューを作った。川の水を汲んできてお湯を沸かし、WRC から持参したお米を使い、鍋でお米を炊いた。また、夕ご飯を作る傍ら、焚火を付けようとしたが、その場にある木は全て湿っており、着火剤で火をつけることはできても、火を保つことが難しかった。夕ご飯ができた時点で日は暮れており、暗い中で食事をした。雪は降っていないものの、やはりとても寒く、温かいご飯がとてもおいしく感じた。川の水や雪を溶かした水を摂取するのは初めてだったため、体調を崩さないか不安だったが、実習期間中問題なく過ごせた。雪山ならではのサバイバル技術を学ぶことができ、とても勉強になった。</p> <p>・ 2月3日 午前中は、テントを撤収したり、お米を焚いて朝ご飯を作ったりした。前日の移動で、靴の中に雪が入り浸水してしまったため、朝には靴が凍ってしまっていた。足用スノーカバーを用意しておくなど、もっと事前に調べて服装を整えておくべきだったと感じた。学生内でそのことについて話していると、「足をビニール袋で覆うと足が濡れなくていいよ」とアドバイスを受けたので、実践してみると、想像していたよりもとても快適に過ごせた。他にも実習中に、サバイバル知識や生活の知恵を共有する機会があり、とても楽しかった。 テント撤収後、田歌舎に戻り、猟犬を使ったシカの巻き狩りを見学した。猟犬に追われて出てきたシカを撃つため、3班に分かれて川沿いでシカを待った。猟犬には GPS 付きの首輪が装着されており、猟師た</p>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

ちは GPS で猟犬の位置を逐一確認して、待つ場所を決めていた。猟犬は、皆自分たちから車に飛び乗るほど威勢がよく、狩りをしに行くのに積極的だった。小屋ではおとなしい素振りを見せていたイヌでさえ、狩りが始まると一目散に駆けていくのを見て、普段私が接しているペットのイヌとはとても性格が違うことに驚いた。狩猟見学は昼食前と後の2回行った。1回目はわずか5分ほどで仕留められ、2回目は2頭を仕留めることができた。1回目の狩猟では、仕留める瞬間を見ることはできなかったが、2回目は目の前でシカを仕留める瞬間を見学することができた。猟犬に追われて川沿いに駆けおりにきたシカは、何発か銃弾を浴びても駆け回っており、想像していたよりも長く動けることに驚いた。シカを殺した後は、すぐに川近くで内臓を取り出して洗い、トラックに乗せて持ち帰った。持ち帰ったシカはすぐに冷水に付けて冷やし、菌の繁殖を防いでいた。

狩猟後は、シカの解体作業を見学した。冷水に付けておいたシカを吊るし、解体作業を行った。私たちも実際に解体作業を体験することができた。私は後肢の肉の切り落としや皮をはぐ作業を体験させて頂いたが、骨に沿って肉をそぐことは難しく、シカの毛が肉についてしまったりした。生きていた姿が段々と肉の塊になっていくのを見るのは少し不思議な感じがしたが、肉の部位の説明を聞き、実際に目にしながら解体作業を行うことで、普段自分が食べている肉がどの部位なのかをしっかりと確認することができた。

夕食は、食堂で鹿肉・猪肉のすき焼きを頂いた。網油や鴨のきんかんなど、普段めったに食べることない部位まで食べることができた。特にシカは、狩猟と解体を見学した後だったため、命を頂いている感覚が大きく、よく味わって食べた。また、肉のほかにも、自家製のお餅やこんにやくなどもあり、ほとんど全て自給自足で賄っていることに感動した。宿舎には薪ストーブがあり、藤原さんに使い方を教えてもらって使ってみると、空調よりも早く室内が暖かくなった。雪山での焚火と火力が断然違い、よく乾いた木を使うことが大切だと感じた。雪山で過ごした後のため、お湯や暖炉の暖かさにとても感動した。

### ・ 2月4日

朝の支度後、せっかくの機会なので、みんなで雪だるまを作った。私は生まれも育ちも雪がほとんど積もらない地方で暮らしていたため、大きな雪だるまが作れるほど雪が積もっていることに少し感激した。雪質は少し硬く、氷っぽかったため、雪だるまは作りやすかった。

冷水に漬けてあったシカを覗いてみると、中でテンがシカを齧っていた。シカ肉にとっては悪影響かもしれないが、野生動物を間近で観察することができたのは貴重な経験だった。

3日間という短い期間、さらに雪山での生活は1泊だけだったが、雪山でのフィールドワーク技術を学ぶことができ、とても楽しかった。私が想像していたよりも、人は不便な状況でも生活できることが実感でき、そのおかげで普段の生活のありがたさを感じるすることができた。また、不便な状況だからこそ、周りの人たちとの協力の大切さも学ぶことができた。今回は、装備不足な部分もあったため、雪の中で必死に過ごしている感覚だったが、今度機会があれば、装備を十分に整えて、雪山での生活を楽しんでみたいと思った。



雪上の移動



雪上でのテント設営



田歌舎での宿泊



雪だるま作り

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



すき焼き用の鹿・猪・鴨肉など



川沿いでシカが降りてくるのを待つ

6. その他 (特記事項など)

本実習を実施にあたって、実習内容を考えて下さった先生方、また、快く受け入れて下さった藤原さまをはじめとする田歌舎の皆様に、心より感謝申し上げます。